に権に就きて実を忘れ先に依りて後を捨つ。未だ仏教の淵底を探らざる者なり。就中、法然、其の流を酌むと雖も其の源を知らず。所以は何。大乗経六百三十七部二千八百八十三巻、並に一切の諸仏・菩薩及び諸の世天等を以て、捨閉閣抛の字を置きて一切衆生の心を薄す。是れ偏に私曲の詞を展べて全く仏経の説を見ず。妄語の至り悪口の科、言いても比無く責めても余り有り。人皆其の妄語を信じ、悉く彼の撰択を貴ぶ。故に浄土の三経を崇めて衆経を抛ち、極楽の一仏を仰ぎて諸仏を忘る。誠に是れ諸仏・諸経の怨敵、聖僧・衆人の讐敵なり。此の邪教広く八荒に弘まり周く十方に遍す。

抑近年の災を以て往代を難ずるの由強ちに之を恐る。聊か先例を引きて汝の迷いを悟すべし。止観の第二に史記を引きて曰く、「周の末に被髪袒身にして礼度に依らざる者有り」と。弘決の第二に此の文を釈するに左伝を引きて曰く、「初め平王の東遷するや、伊川に被髪の者の野に於て祭るを見る。識者の曰く、百年に及ばじ、其の礼先ず亡びぬ」と。爰に知りぬ。徴前に顕れ災後に致ることを。又、「阮籍逸才にして蓬頭散帯す。後に公卿の子孫皆之に教い、奴苟相辱しむる者を方に自然に達すといい、撙節兢持する者を呼んで田舎と為す。司馬氏の滅ぶる相と為す」と已上。又、慈覚大師の入唐巡礼記を案ずるに云く、「唐の武宗皇帝の会昌元年、勅して章敬寺の鏡霜法師をして諸寺に於て弥陀念仏の教を伝えしむ。寺毎に三日巡輪すること絶えず。同二年、廻鶻国の軍兵等、唐の堺を侵す。同三年、河北の節度使忽ち乱を起す。其の後、大蕃国更命を拒み、廻鶻国重ねて地を奪う。凡そ兵乱は秦項の代に同じく、災火は邑里の際に起る。何に況や、武宗大いに仏法を破し多く寺塔を滅す。乱を撥むること能わずして